

うさぎとかめ通信

上越市立高田幼稚園

(週刊：園長室だより) 106周年

令和4年12月15日 第167号

HPのQRコード→

「思い→体験→表現」は、幼児・児童・生徒に一貫する、遊び・学びの基本！



子どもの姿から

【もも組：劇で使う葛籠(つづら)】→

13日(火)に、発表会リハーサルを行いました。

発表会当日は互いの発表を見ることができないため、このリハーサルで楽しみます。

もも組は、とにかくかわいらしいことがアピールポイントでした。劇遊びも遊戯も、言葉や動作がほほえましいです。アドリブ感覚で子どもたちが楽しんでいました。4月からの遊びを通した一人一人の成長が強く感じられました。

うめ組は、子どもたち一人一人が自信に満ちていました。遊戯も劇ごっこも、自分の役割をしっかりと意識して、見ている人に伝えようとしています。うめ組の「ぐりとぐら」の世界観がステージの上に表現されていました。

まつ組は、これまでのミッション遊びが根底にありました。バラエティと劇のつながりも、ミッションで行われていました。自分が得意なこと、好きなことを自信をもって発表していました。友達との協力もよかったです。



園庭・園舎から

【うめ組：劇で使うフライパン】→

14日(水)に、かめさんくらぶを開きました。

7回目となり、上越市立美守小学校の黒田教頭様が来園されました。子どもたちの活動を参観され、優しく声をかけてくださいました。ちょうどサンタさんからの手紙を園内で見つけた子どもたちが、「サンタさん、来園！」と大歓迎しました。優しくご対応いただいた黒田様、ありがとうございます。園外の皆様から見守られ、あたたかく育てていただいている高田幼稚園の子どもたちです。



キーワード

【まつ組：劇で使うお店セット】→

○新潟県発祥の観賞魚、錦鯉

錦鯉は新潟県が発祥地で、約200年前の江戸時代に真鯉から突然変異した鯉を中越地方で養殖したことが始まりです。現在では紅白や大正三色、昭和三色など80種以上の品種があります。錦鯉は温厚で他の魚と争うことがほとんどなく、

人に慣れて水面から顔を出して餌をねだります。昭和43年に全日本総合錦鯉品評会で「国魚」と名付けられ、平成29年に「新潟県の観賞魚」に指定されました。

近年、ヨーロッパ州や北アメリカ州、アジア州など世界に広く普及し、「泳ぐ芸術品」として新潟県が誇る日本文化の一つとなりました(ジャパン・ブランド)。令和4年11月6日には、朱鷺メッセで「世界錦鯉サミット」が開催され、錦鯉に関する用語は国際語として日本語のまま使われています。令和3年度新潟県農林水産物の輸出額第1位は錦鯉で約27億円(第2位の米は約11億円)であり、政府は農水産物の輸出拡大に向けて令和4年に錦鯉を「重点品目」に追加しました。(参考：新潟県、全日本錦鯉振興会、スペクトラムブランズジャパンのサイト、新潟県「新潟県産農林水産物輸出拡大実行プラン」令和4年3月)

